

伝統を
次の世代に
つなぐ

おぢやんしょインタビュー④

牛太郎と伝統を守り続ける

東山小学校では、開校以来、角突き牛「牛太郎」とともに学校生活を送ってきました。5月から11月まで毎月一回行われる「牛の角突き」には、高学年児童とともに、元氣よく出場しています。高学年の総合的な学習の時間では、この牛の角突き（東山地区伝統文化「闘牛」）を題材にして学習活動を行ってきました。



牛舎から小栗山中腹にある闘牛場に向かう牛太郎。闘牛場内は女人禁制のため、闘牛場の入り口まで高学年の女子が牛引きします。

震災にも負けず伝統の闘牛を守り続ける東山小学校

現在東山小学校の児童が学校生活をとめている角突き牛「牛太郎」は2代目。初代「牛太郎」を引き継ぐために、平成24年春に若手県からやってきた白毛の南部牛です。児童のみなさんの愛情を受け、牛太郎は闘牛として年々成長しているそうです。平成16年の中越大地震の際には、地域全体に被害が大きく、牛の世話ができる状態ではなかったため、初代牛太郎は小栗山の牛舎から長岡、そしてふるさと岩手県に避難。小栗山に戻ってきたのは平成17年の春のことでした。東山地区に伝わる伝統文化「牛の角突き」。角突き牛は地域の人々の心の拠り所として、各集落や家族のステイタスとして、大切に育てられてきました。震災を乗り越え「牛の角突き」を守り続けている小千谷闘牛振興協議会の会長、間野さんと東山小学校の片岡さん、間野さんにお話を伺いました。

闘牛が教えてくれた大切なこと、歴史・伝統・思いやりの心……

片岡さん 僕は小千谷で一番若い勢子（せこ）です。祖父が牛を飼っていたので昔から牛が好きで勢子さんに憧れていました。現在、自宅では3頭の牛を育てています。まだ、見よう見まねでお手伝い程度ですが、いつか一人前の勢子として自分の牛と闘牛に出るのが夢です。

間野さん 小学校に入っただけで闘牛に触れました。低学年の時から、えさやりや牛舎のそうじをしたりしました。高学年の女子は、牛舎と闘牛場の行き帰りに牛太郎の牛引きをします。

間野会長 震災の翌年、小千谷闘牛振興協議会は「小千谷の復興は牛の角突きから」という合言葉で仮設の会場を作って牛の角突きを開催しました。みなさんを元気づけられたと思います。角突き牛は地域ぐるみで愛情を持って育てています。子どもも大人もみんな仲よくこの貴重な伝統文化を守り続けていきたいですね。

※勢子＝牛に寄り添い牛を操り牛を分ける人



闘牛場での牛太郎（左の白い牛）の勇姿。回を重ねるごとに力強さが増してきています。角突き牛としての成長を大人も子どももみんな喜んで見守っています。



東山小学校では、月2回木曜日の昼休みに「牛太郎タイム」を設定しています。縦割り班が交代で牛舎に行き、えさやりやそうじなど牛太郎のお世話や観察をします。



場内の清掃や受付のお手伝いもします。



相撲でいう化粧まわし「面綱（おもづな）」をつけた牛太郎は、誇らしげです。闘牛場の入口には、出場する牛たちののぼりが。

地域の伝統行事として長年守り継がれてきた牛の角突き

「ヨシター」という勢子の掛け声が飛び交い、巨大な牛同士がぶつかり合う。迫力満点の牛の角突きは、江戸時代の文豪、滝沢馬琴の書いた「南総里見八犬伝」に記述があるほど古く、旧古志郡二十村郷の神に捧げる伝統行事として長年守り継がれてきました。越後の角突きは、引き分けが原則。両方の牛の闘争心や自信を保ち、より強くさせるためでもあります。興奮した牛を引き離す勢子の妙技や勇姿も見応えがあります。

Bull fight has been preserved and passed down over many years as the region's traditional event.

As the beater cries 'Yoshita!', massive bulls lock horns. The formidable bull fight is so old that it is described in the Nansō Satomi Hakkenden by the great literary figure of the Edo period, Bakin Takizawa, and has been preserved over many years as a traditional event dedicated to the gods of the 20 villages of the old Koshi County. The bull fight in Echigo ends in a draw, as a general rule. This is so that both bulls keep their fighting spirit and confidence so that they become stronger. The masterful skill and bravery of the beaters that pull apart the excited bulls are also something to see.



昭和30年代に飼育頭数が減ったため一時中断となりましたが、昭和50年に復活。昭和53年には国の重要無形文化財に指定されました。◎牛の角突き／5月～11月（各月1回開催）雨天決行／会場：小栗山「小千谷闘牛場」

Continuing to preserve the tradition with Gyutaro.

Since its opening, Higashiyama Elementary School has been spending school life with the fighter bull Gyutaro. At the Bull Fight held once a month between May to November, Gyutaro attends the fight with the older school children. During general lessons for the older children, the bull fight (Higashiyama District's traditional culture) was used as a theme of their studies.



小千谷闘牛振興協議会 会長 間野 泉一さん

小千谷東山牛の角突きを学ぶ会（小千谷市立東山小学校内）
6年 片岡 凜太郎さん
6年 間野 七海さん